

B—20 洗淨力試験についての一考察（第7報）  
——人工油性汚垢の除去率簡便評価法——

ライオン家庭科研

鈴木益太郎

緒方 忠

石 英輔

○武田千恵子

1. ライト系洗剤の洗淨力を評価する上で、油性汚垢

の除去率（脱脂力）を検討することも必須条件の一つである。従来、油性污垢布に対する洗剤の脱脂力は、洗浄前後の布に付着している油脂量を重量法又は抽出法により求め評価されてきたが、前者は精度の点で問題があり、後者は時間的に不経済である。

そこで、我々は脱脂力評価の一つの方法として、操作の簡便なオイルカラーを用いる反射率法につき検討した。

2. 純毛モスリン生地（10×10cm・繊維工業用洗剤の洗浄力試験に用いる標準布、大東紡製）を油性污垢溶液（ステアリン酸15%、オレイン酸15%、極硬牛脂30%及び流動パラフィン40%から成る油脂の3%  $\text{CH}_3\text{CCl}_3$  液にオイルカラーを適量混入）に浸漬して油性污垢布を作成した。本污垢布をライト系洗剤を用い、Tergotometerで洗浄し、その洗浄効率を反射率法（光電式反射度光度計 ELREPHO により測定）と抽出法により算出した。

3. オイルカラーとしてバイエル社製 Ceres Red-7B を使用し、洗剤濃度別、温度別等により洗浄力評価を行なったところ、反射率法は抽出法とほぼ同等な傾向を示し極めて良い相関が得られた、即ち、Ceres Red-7B は、油のトレーサーとして使用出来ることを認めた。

従って、この方法はライト系洗剤の洗浄力を人工油性污垢除去率で評価する場合の簡便法として、十分採用可能と考える。